

◎印旛高校跡地活用事業の概要◎

事業名	内容	事業名	内容
①(仮称)木下交流の杜広場整備事業	印旛高校跡地内の旧校舎跡(高台部)を中心に、優れた眺望を活かした広場やイベント等が行える広場などを整備	⑦農場活用事業	既存の建物や温室を改修し、就農支援や園芸を通じた市民交流等に活用できる施設の整備
②学童保育施設整備事業	児童の安全性、保育環境の向上を目的とした学童保育施設の整備	⑧就労サポートセンター整備事業	精神障がい者を対象とした作業所の整備。隣接する温室等を活用して園芸や製作活動を通じて自立支援を行う
③歴史資料展示施設整備事業	木下貝層(国指定天然記念物)を中心とした地域の歴史資料を展示、保管する施設の整備	⑨(仮称)木下交流の杜市道整備事業	印旛高校跡地の活用に必要な市道5路線を整備
④スポーツ広場整備事業	フットサルやバタックなどのスポーツを行える広場の整備	⑩手賀第二排水区整備事業	印旛高校跡地の活用に必要な雨水排水施設の整備
⑤幼保一体型施設整備事業	木下保育園、大森保育園、大森幼稚園を統合した幼保一体型施設の整備	⑪木下地区汚水整備事業	印旛高校跡地の活用に必要な汚水管の整備
⑥(仮称)木下交流の杜公園整備事業	印旛高校跡地内の旧グラウンドを中心に、スポーツも行える多目的な広場などの整備	⑫(仮称)木下交流の杜水道管整備事業	印旛高校跡地の活用に必要な水道管の整備

印旛高校跡地活用基本設計が完成

市では、印旛高校跡地の活用について、公募市民や関係市民団体からなる印旛高校跡地活用検討市民会議からの提案書や市民アンケートの結果などを踏まえ作成した「印旛高校跡地活用基本計画」に基づき、印旛高校跡地活用基本設計の作業を進めてまいりました。

この度、基本設計が完了しました。基本設計は、市民会議からの提案を基本として、多世代の交流が創出され、次世代の夢を育む場としての活用、「地域の活性化に資する活用」などを基

は「印旛高校跡地活用事業の概要」および「印旛高校跡地活用基本設計図」とおりです(市ホームページからもダウンロードが可能)。



ごみの分別大事典シリーズ⑩

身近な物の重さご存じですか

市では「第2次印西市ごみ減量計画」に基づき、ごみの減量化・資源化に取り組んでおり、この計画では、家庭系の燃やすごみを一人1日あたり約130g減らすことを目標としています。

それでは、130gはどれくらいの重さでしょうか。目安となる身近な物の重さは次のとおりです。

- ・新聞紙の朝刊(約170g)・キュウリ(約100g)・ミカンの皮(約30g)・レジ袋大(約10g)・紙コップ(約5g)・割りばし(約5g)などとなっております。130gを減らす場合、単純に計算するとキュウリとミカンの皮を合わせた重さになります。

普段、なにげなく受け取ったり、ごみとして捨てたりしている物などを振り返し、ごみを出さない生活を心がけましょう。

☎クリーン推進課クリーン推進班(☎内線383)。

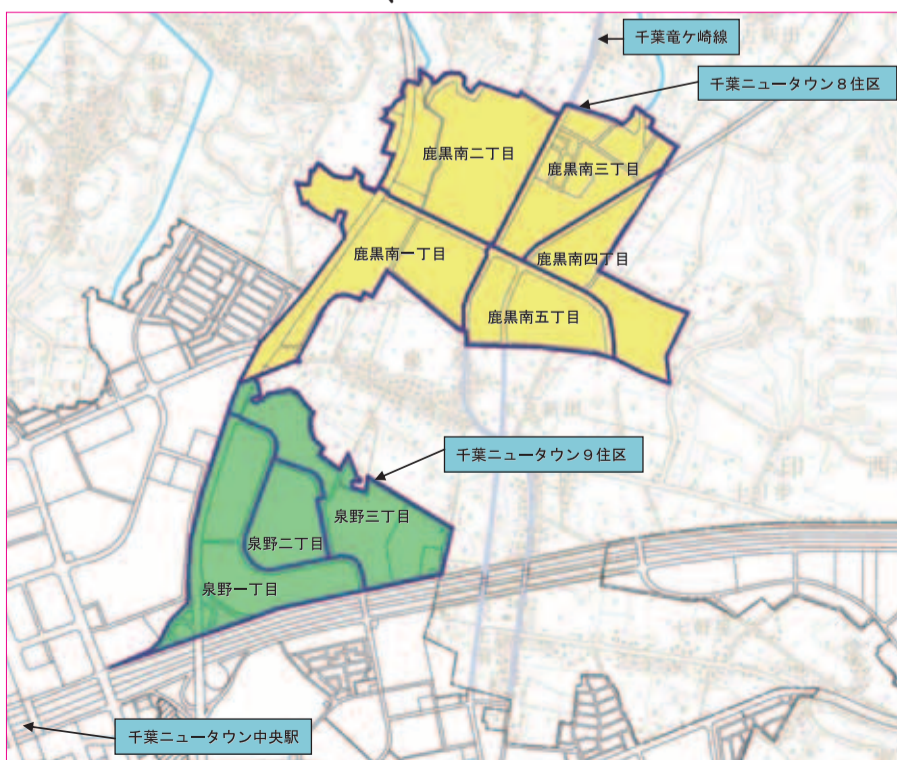
一人1日あたりのごみの減量目標

- キュウリ 約(100g)
 - ミカンの皮 約(30g)
- 合計で約130gの減量にご協力ください!



「鹿黒南一丁目～五丁目および泉野一丁目～三丁目」が新たな住所表示として決定

千葉ニュータウン事業の伸展に伴い、平成24年12月26日から千葉ニュータウン中央駅北東側の区域(千葉ニュータウン8住区および9住区)が「鹿黒南一丁目～五丁目」と「泉野一丁目～三丁目」という新しい住所の表示となりました。



副市長に高橋 諭氏が就任



1月1日から副市長に就任した高橋諭氏

1月1日付けで、副市長に高橋諭氏(63歳)が就任しました。高橋氏は、昭和48年3月に中央大学法学部法律学科を卒業後、同年4月に千葉県庁に入庁。総務部・企画部・衛生部・土木部・企業庁・教育庁など多くの部署を経験し、県土整備部次長、

企業庁管理部長などを歴任されました。平成21年3月に県庁を退職した後も、千葉県国民健康保険団体連合会常務理事、(公)千葉県消防協会専務理事の要職を務められました。県政などの豊富な知識と経験による高橋氏の手腕が期待されます。